

(4) 文化財活用の促進

文化財に対する理解を深め、愛護思想の高揚を図るため、本年度から3年継続で県指定文化財に標柱等を設置した。

また、第31回県民俗芸能大会、第2回県民謡まつりを開催した。一方文化財保護強調週間（11月1日～7日）中は県庁正面に垂幕による啓発を行い、文化財防火デー（1月26日）にはチラシを作成し配布した。

第2節 文化活動の促進

1 文化振興のための条件整備

(1) 文化行政の推進

① 市町村文化行政担当者会議

ア 日 時 昭和56年5月15日

イ 会 場 県文化センター

ウ 参加者 124名

エ 内 容

(ア) 文化行政重点施策の概要

(イ) 文化課及び県文化センター事業の説明

② 芸術文化懇談会

本県文化の将来への発展のために出席者より提言を求め、県民文化の振興並びに県文化行政推進の参考とした。

ア 青少年文化活動部門

(ア) 日 時 昭和56年8月21日

(イ) 会 場 全通会館

(ウ) 懇談事項「高校生の文化活動を推進するために」

(エ) 出席者

岡部林之助、栗村道彦、原秀司、赤塚幹典、渡部康夫、村上啓正、今井徳年、統橋徳男、平山正秋

イ 文化施設部門

(ア) 日 時 昭和56年9月24日

(イ) 会 場 県文化センター

(ウ) 懇談事項「県文化センターの在り方について」

(エ) 出席者

渡辺到源、高野広治、山川忠義、古山直一、遠藤伊雄、渡部宏、河田亨、栗城正義、庄司吉之助、笠原美禰

(2) 指導者の育成

① 芸術セミナー

地域文化活動を推進指導する実作家・実活動家を対象として、実技・実作を中心に地域文化活動を推進するために必要なことについて研修を行い、その資質向上の機会を提供する目的で実施しているもので、芸術6部門について県内6地区で開催した。

ア 期日・会場・参加者等

| 部門 | 期 日 | 場 所 | 参 加 者 数 | 内 訳 |
|----|---------------|-------------------|---------|-------------------------|
| 文学 | 5月21日 ～23日 | 須賀川市中央公民館 | 66名 | 小説7名、詩9名 短歌30名、俳句20名 |
| 舞踊 | 6月25日 ～27日 | 浪江町民体育館 | 91名 | |
| 絵画 | 7月23日 ～25日 | 只見町只見公民館 | 47名 | 日本画26名 油 絵21名 |
| 彫塑 | 8月6日 ～8日 | 福島女子高校 | 26名 | |
| 演劇 | 8月20日 ～22日 | いわき市小名浜 市民会館 | 65名 | |
| 合唱 | 11月5日 ～7日 | 会津若松市 文化福祉センター | 41名 | |
| 計 | | | 336名 | |

イ 内 容

(ア) 講義及び実技を基にした研修

(イ) モデル演奏、演技を基にした研修

(ウ) 地域の文化活動に関する研究協議

ウ 講 師

(ア) 文 学

小説 鈴木満（日本作家協会理事・会津ベンクラブ会長）

詩 小川琢士（福島県現代詩人会理事長）

短歌 大内興五郎（福島県歌人会会長）

俳句 高久田大一郎（福島県俳句作家懇話会副会長）

講話 横井博（日本大学教授・文学博士）

(イ) 舞 踊

長沢トシエ（福島県民踊指導者連絡協議会幹事長）

鈴木武子（福島県民踊指導者連絡協議会副会長）
岩崎敏夫（東北学院大学教授）

(ウ) 絵 画

小林五浪（日本美術院特待・県展審査員）

渡部憲司（日本水彩画会会員・県展審査員）

(エ) 彫 塑

高橋剛（日展評議員）

(オ) 演 劇

装置・演出 永曾信夫（桐朋学園短期大学教授）
効果 田村恵

(カ) 合 唱

阿部昌司（全日本合唱連盟理事・山形県合唱連盟理事長）

エ モデル上演団体

(ア) 舞 踊

浪江町舞踊のふるさと会

(イ) 演 劇

福島県立小名浜高校演劇部

(ウ) 合 唱

若松おかあさん合唱団（会津若松市）